

# 9月議会 一般質問

# 高レベル放射性廃棄物の地層処分や戦車の訓練、 阿寒川洪水対策、鳥取南団地の水道管凍結防止策を質問

騒音は百デシベルを大きく超え、ガードレール下に匹敵する大きさでした。村上議員は、「市民生活軽視もはなだしい。なぜ、公道の使用許可を与えたのか」と、きびしく追及しました。



## 戦車の公道での訓練反対

8月26日、釧路町駐屯地から釧路西港まで行われた戦車・装甲車の公道自走訓練について質問しました。

市民が安全に行き来する公道で50トンを超える戦車が訓練する様は、異様そのもの。



今回のハザードマップは山花から下流です。引き続き、阿寒地域のハザードマップの早期完成を働きかけます。

核の再処理で生まれる高レベル放射性廃棄物。政府は地下三百メートルに埋めて処分する考えです。昨年7月には処分適地を明示した「科学的特性マップ」を発表、釧路市の大半も適地とされました。さすがに、蝦名市長も処分場には反対。「釧路は食物生産基地。風評被害は避けなければならぬ」と発言します。しかし、これでは釧路でなければ構わないという事になってしまいます。日本の地下は活断層も多く、火山活動も活発です。「日本での地層処分は不可能です。」と原発政策の転換を訴えました。

## 高レベル放射性廃棄物を埋める 地層は日本のどこにもない



日本共産党  
村上かずしげ議員

村上議員がずっと求め続けてきた阿寒川の洪水ハザードマップが完成、広報くしろ9月号に掲載されました。改めて被害の規模にびっくり。最大規模の洪水になると、水没地域は大楽毛西2丁目を除く大楽毛全域、星が浦の西半分、鶴野の大部分、鳥取の一部、昭和も相当広範囲にわたって浸水。新釧路川まで、阿寒川の洪水がやってきます。浸水深は50センチから3メートル。ひどいところは、この浸水が2から4週間も続きます。

村上議員は、最大規模の洪水の場合の避難人数と避難所の収容人数を質問。市は避難すべき人は約三万人、避難所の収容人数は8千人弱と答えました。多くの避難所にまず避難してもらって、さらに別な避難所に逃げてもらおうと答弁しましたが、本当に大丈夫でしょうか。

## 阿寒川洪水ハザードマップ



## パイプは電熱線で保温します

今年2月末、鳥取南市営住宅の「しんよう1号棟」で、水落としたはずの水道管が凍結・破損。廊下と階段が水浸し・凍り付く事故が起きました。2月議会での問題を追及。市は再発防止のための改良を約束していました。

9月から、廊下に設置されているパイプシャフトのメーターとパイプに、凍結防止の電熱線を巻きつける工事が始まりました。電気代は市が負担をします。